

都道府県別賞一等

安心した暮らしのために

福島県 須賀川市立第三中学校 二学年

田中 瑞希

昨年、我が家に生命保険の必要性を強く感じる出来事が起きました。下校途中の兄が突然、息が苦しくなり入院してしまったのです。それまでの兄は、持病もなく、運動部にも所属しているスポーツマンで、まさか入院するとは思いませんでした。

その日は、いつもの帰宅時間を過ぎて、連絡もなく、私は兄を心配していました。しばらくして、ようやく母の携帯電話に兄から連絡が入り、電話で話す母の様子を隣で見えました。次第に曇っていく母の顔を見て、何かおかしいと、私の不安はさらに大きくなっていきました。「お兄ちゃん、動けないみたいだから迎えに行ってくるね。」と急ぐ母を私は見送る事しか出来ませんでした。その後、母と帰宅した兄を見て、少し安心しましたが、いつもと違う様子の兄に不安を覚えました。

翌日、兄と病院へ行った母から兄が入院した事を聞き、驚きました。入院準備をする母に兄が気胸という病気にかかった事、肺が潰れてへこんでしまう病気だという事、長い入院になるかもしれない事を立て続けに聞いて、私は動揺を隠せませんでした。心配する私に母は、急ぎながら「治る病気だから大丈夫だよ。」と言って、足早に病院へと出かけて行きました。

それから帰宅した母に、兄の病状が落ち着いたと聞いて、私も一安心しました。「良かったね。」と言う私の声に、母はぎこちなく笑いました。その時はまだ、母の表情を読み取る事は出来ませんでした。兄が退院してから、その理由を知りました。

兄のかかった気胸という病気は、高額な治療費が必要で、その費用を補うための保険に入っていないのです。

兄が入っていた保険は、傷害保険というもので、ケガをした時には、給付されますが、病気で入院した時には補償されない保険だと母が教えてくれました。

この時に、私は初めて保険に色々な種類がある事を知りました。兄の入院があつてから父は、傷害保険の他に入院保険も追加で入る事に決め、姉と私も加入しました。

しかし、気胸にかかった兄は、保険に加入出来ないかもしれないと父から聞きました。

その後、兄は自然気胸だったため、保険に入る事が出来ましたが、持病がある

第62回中学生作文コンクール

と保険に入れない場合がある事を知り、保険について改めて考えさせられました。

私は、保険について具体的に知りませんが、兄の入院という衝撃的な出来事から保険の重要性と必要性を知りました。

安心した暮らしをこれからも送るためには、健康なうちから備えていなければならぬという事を強く感じました。今、健康だとしても将来どうなるか分かりません。兄のように突然、病気にかかるかもしれません。万が一のために、家族がずっと笑顔でいられるために、保険について知識を身につけたいです。